



進水式の見える場所

〈撮影者コメント〉
福岡造船所の対岸である博多漁港の岸壁から撮影しました。

おやまだ きみこ
小山田 公子

福岡市西区

〈撮影場所〉
中央区長浜3丁目

〈撮影時期〉
平成21年5月

〈講評〉
博多湾内での進水式を船の正面から望遠レンズ引寄せて力強く表現している。光と陰のバランスの良い時間で船の主体感が出た。バックの荒津大橋にはバスが走り、右手前の小型船上の人物が両面に活気を与えている。



玄界島の見える丘

〈撮影者コメント〉
配色美しくリビングストンデージが丘いっぱいに咲き揃っています。

いちはし まさこ
市橋 正子

福岡市中央区

〈撮影場所〉
能古島アイランドパーク

〈撮影時期〉
平成22年5月

〈講評〉
色彩の美しさに目を奪われる作品だ。画面の半分以上を占める暖色の花々、その奥に伸びるつややかな緑の階調、そして水平線と水面から盛り上がる玄界島、その上に広がる空が構成する青の層。色が織りなす景色はダイナミックだ。都心部に近く福岡市民の日常的な憩いの場である能古島。その景色の魅力を再認識させてくれる。



お櫛田さんに一参り

〈撮影者コメント〉
博多町屋ふるさと館からお櫛田さんへ向かうもつとも博多らしい町並み。

かわて たつひろ
河手 達博

福岡市中央区

〈撮影場所〉
櫛田神社前

〈撮影時期〉
平成22年5月

〈講評〉
福岡・博多の二大名物の遭遇です。屋台を引っ張っている姿は、福岡に住む者には見慣れた光景ですが、こうして博多の総鎮守・櫛田神社と遭遇しているのを見ると、とても新鮮な姿に見えました。これが福岡・博多だい!と思わず自慢したくなりますね。



空へ

〈撮影者コメント〉
都市高の荒津大橋と飛行機と港です。福岡の陸、海、空が一望できる場所です。

たわらひろあき
俵 弘明

福岡市南区

〈撮影場所〉
中央区長浜3丁目付近

〈撮影時期〉
平成22年8月

〈講評〉
荒津大橋、白い雲、そして飛行機と、この三つを画面の対角線に配したユニークな画面構成、空の青さが気持ち良く、画面を引き締めています。海へ、空へ、開かれた都市「福岡」を一枚の写真に収めたすがすがしい作品です。

ボトルキャップペア

主催者：株式会社博多大丸

概要：巨大な透明プラスチック製の熊の形の入れ物にボトルキャップを回収するエコ活動。

かわいらしいクマの存在によって、ペットボトルのキャップがリサイクルされることを知った市民は多いだろう。リサイクルの必要性は理解しても、実際に手掛けとなるとためらいがちになる。その点、地球温暖化の影響を受けて生息が危ぶまれているホッキョクグマをモチーフにした透明のオブジェに、色とりどりのキャップで彩ることがポリオワクチンの購入資金になると分かれば一個でも多く持ち寄りたくなるだろう。現に1度撤去されたが、市民の存続を求める声で再び設置されている。通行人にさりげなくエコマインドを訴えるシンボルとなり、都市景観に新たな視点を吹き込んだ。



堤ECOビアンス会

主催者：堤ECOビアンス会

概要：油山観光道路の沿道等に街路花壇を設ける活動。ボランティアにより植え付け、清掃、維持管理を継続して行っている。

近年、世界各地で、都市においても生物多様性を追求すべきことが議論されている。都市の自然に新たな意義が見出されつつあるのである。本活動は沿道や様々な空間に花壇等を設置し、地域住民が自ら毎日のように維持管理する取り組みである。街を植物で彩ることは視覚的な環境を向上させる。これに加え、外来種の扱いをどうするかという課題が十分配慮されれば、生物多様性の改善に資する、さらに意義深い活動に発展する可能性がある。灘波池池畔、南片江の小学校南門前と公民館、外環状線側道に及び空間的な広がりと、高齢者から子供まで参加する10年に近い活動の継続は、福岡市の都市環境の今日的課題の対策に大いに寄与するものと評価したい。

